

1 3 消防・防災

① 防災

管内では、近年頻発する大雨等に起因する自然災害や十勝岳等の噴火災害、道内有数の山岳地帯であることを背景とした山岳遭難など様々な災害に対応するため、防災体制の充実強化を図っています。

■ 防災対策の推進について

日ごろの防災体制の充実強化、市町村や防災関係機関との連携強化を図るため、各種訓練、会議等を開催しています。

また、各市町村では、地域住民が安心して暮らせるよう、自然災害等に対する防災対策として、災害時に相互に扶助できるよう市町村間において防災協定を締結するなどの取組が進んでいます。

■ 十勝岳噴火総合防災訓練

十勝岳火山防災協議会（上富良野町、美瑛町ほか1市3町及び国・道など防災関係機関により構成。）が、積雪寒冷期における融雪型火山泥流災害を想定した訓練を毎年実施し、訓練を通して、周辺市町や防災関係機関との連携体制の構築を図っています。



【参考】主な十勝岳の噴火歴

□大正 15 年 5 月（1926）

死者 123 名、行方不明者 21 名

□昭和 37 年 6 月（1962）

死者 4 名、行方不明者 1 名

□昭和 63 年 12 月（1988）

～平成元年 3 月（1989）

21 回噴火。人的被害はなし。

美瑛町白金地区の避難生活 127 日間

（令和 5 年度十勝岳噴火災害対策現地合同本部運営訓練の様子）

■ 山岳遭難の防止に向けて

管内には、大雪山系や十勝岳連峰といった魅力的な山々があり、登山や行楽・山菜採りなどの入山者が増加しています。

その一方で季節に関係なく山岳遭難事故が頻発していることから、道警、管内消防本部、陸上自衛隊、旭川地方气象台及び地元自治体などの関係機関と連携し、遭難者の捜索救助及び事故防止対策に取り組んでいます。

<道警旭川方面本部管内の山岳遭難事故発生件数及び人数>

（単位：人）

区 分	件 数	死 傷 者 数 等				
		死 者	負 傷	無 事	不明者	
令 和 5 年	43	47	2	24	19	2
令 和 4 年	33	43	3	14	26	0
前 年 比	10	4	-1	10	-7	2

② 消防

上川管内には、消防組織法に基づく消防機関として次の消防本部（消防署、支署、出張所等を含む）とそれぞれの市町村に消防団があります。

消防の主な任務は、警防・救急・救助・予防等の業務です。

また、消防団は、地域における消防防災のリーダーとして、平常時・非常時を問わずその地域に密着し、災害現場での消火や災害時の警戒巡視、避難誘導、災害防御のほか、高齢者宅への防火訪問や応急手当の普及指導など、常備の消防と共に、住民の安心と安全を守るという重要な役割を担っています。

■組織の概要

本部（署・支署）名	消防団	概要
●旭川市消防本部		
消防本部 南消防署（6出張所1分遣所） 北消防署（3出張所2分遣所） 上川消防署（1出張所） 鷹栖消防署	旭川市消防団 630人 鷹栖町消防団 73人 上川町消防団 75人	消防職員： 404人 火災： 84件 救急： 19,049件 救助： 286件
●富良野広域連合消防本部		
消防本部 富良野消防署（2支署1出張所） 上富良野消防署（1支署）	富良野消防団 146人 上富良野消防団 55人 中富良野消防団 55人 南富良野消防団 56人 占冠消防団 37人	消防職員： 123人 火災： 20件 救急： 2,166件 救助： 32件
●上川北部消防事務組合		
消防本部 名寄消防署（1出張所） 下川消防署 美深消防署（1分遣所） 中川消防支署 音威子府消防支署	名寄消防団 113人 風連消防団 61人 下川消防団 55人 美深消防団 66人 中川消防団 52人 音威子府消防団 22人	消防職員： 120人 火災： 11件 救急： 1,713件 救助： 58件
●士別地方消防事務組合		
消防本部 消防署（1支所4分遣所） 消防署和寒支署 消防署剣淵支署 消防署幌加内支署（1分遣所）	士別市消防団 190人 和寒町消防団 38人 剣淵町消防団 40人 幌加内町消防団 47人	消防職員： 100人 火災： 25件 救急： 1,455件 救助： 19件
●大雪消防組合		
消防本部 美瑛消防署（1分遣所） 東消防署 当麻消防署 比布消防署 愛別消防署	美瑛消防団 121人 東川消防団 86人 東神楽消防団 76人 当麻消防団 97人 比布消防団 45人 愛別消防団 74人	消防職員： 118人 火災： 17件 救急： 2,210件 救助： 22件

※消防職員及び団員数：令和5年4月1日時点

※火災・救急・救助件数：令和5年中の出動回数

■火災発生状況

※令和5年は概数値

